

教 師 ノ ー ト

| | |
|--|--------------|
| 日付 | 2019年 9月29日 |
| 単元 | 使徒の働き・2 |
| テーマ | 使命を全うする |
| タイトル | ローマにたどり着くパウロ |
| テキスト | 使徒 27 章、28 章 |
| 参照箇所 | 使徒 21-26 章 |
| 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) Ⅱ テモテ 4:7 | |
| AG 日曜学校教案参照箇所 小上 3 巻 1 題 11 課、小上 3 巻 1 題 12 課、小下 2 巻 4 題 9 課、小下 2 巻 4 題 10 課、 小下 2 巻 4 題 11 課、中 3 巻 1 題 11 課、中 3 巻 1 題 12 課、中 3 巻 1 題 13 課、幼 1 巻 3 題 13 課 | |
| □導入 興味を起す質問をしましょう | |
| 例:あなたは何かをしようとして(毎日日記を書こう、毎朝ジョギングをしようなど)途中であきらめたり、イヤになってやめたりしたことはありませんか? | |
| □ポイント1 パウロは囚人としてローマへ行くことになりました(21-26章の簡潔な説明) ローマはパウロのミニストリーのゴールです。もちろん福音のゴールは地の果てまでであり、すべての民に届くべきものですが、パウロにとっては、目標地点でありました。それは、聖霊の導きによって、彼の内に立てられた計画でした(19:21、23:11)。 | |
| ☞メッセンジャーは21-26章を調べて、パウロが囚人としてローマに行くことになった経緯として、説明すべきポイントをおさえましょう。また分かりやすく、簡潔に語れるように、祈って工夫しましょう。以下は教師の理解のための要約です。 パウロはエルサレムでアジヤから来たユダヤ人の群集に捕らえられました。群衆は、自分たちの故郷(エベソ)で、パウロが勢いよく福音宣教をしたので(ユダヤ主義を否定されて)彼に反感を持っていました。彼らは、パウロが、神殿の内庭に入ることを禁止されているはずの異邦人を、連れて入ったと勘違いをして、 <u>何の罪も犯していないパウロを死刑にしようとした</u> (21:21-30)。そこへ千人隊長が駆けつけ、パウロの命は守られました(21:31-22:24)。さらに、神は、パウロを彼のローマの市民権によって守られました(22:25-30)。ローマ市民には、色々な特権が保障されていました。そのひとつとして、ローマ市民にムチ打ちの拷問を与えることは、禁じられていました。神は、その計画の中で、パウロの先祖に、価値あるローマの市民権を与えられたのでしょう。それでもユダヤ人たちは、パウロを罠にかけて殺す計画を企てました。しかし神は、この陰謀からも、彼を守られました(23:12-35)。パウロは、全くの無罪でしたが、エルサレムで裁判を受けると、ユダヤ人によって不正に裁かれてしまう可能性があります。ローマ市民権を使って、ローマで裁判を受ければ、その心配はありません。しかも、必然的に、神の計画の目標地点であるローマへ行くことができます。パウロは、ローマで裁判を受けることを選びました。ついにパウロは囚人としてローマへ行くことになりました。 | |
| □ポイント2 ローマへの航海はたいへん困難でしたが、神さまが守ってくださいました(27:1-28:13) パウロの乗った船は暴風に見舞われました。船体を守りながら、風に任せるのが精一杯で、何日も不安な日が続きました。そんな中、パウロは、元気を出しなさい、必ずどこかの島に打ち上げられると言って皆を励ました。ついに船は暗礁に乗り上げ、動けなくなったとき、兵士たちは、パウロを含む囚人たちを殺 | |

そうとしました。囚人を逃してしまうと、自分たちが罰せられるからです。しかし百人隊長は、パウロを助けることに決めていたので、他の囚人も皆守られました。こうして、神がパウロを守られたので、全員が座礁した船から脱出して、マルタ島に上陸しました。そこでまむしがパウロに噛みつきましたが、何の害も受けませんでした。人々はパウロを、「この人は神さまだ」と畏れるようになりました。また、パウロは島の首長の父親の熱病と下痢をいやしました。

☞メッセンジャーは、まず地図でパウロの航路を確認しましょう。聖書を読んで、パウロの壮絶な航海のようすと、パウロの信仰を理解しましょう。子どもたちを聖書の世界に引き込めるように、臨場感をもって語りましょう。

□ポイント3 パウロはついにローマに到着し、みことばを宣べ伝え続けました(28:14-31)

パウロはついにローマに到着しました。ローマでは番兵付きではあるものの、自分だけの家に住むことが許されました。3日後、パウロはローマにいるユダヤ人に、囚人としてローマに来た経緯を弁証することから始めました。2度目には、もっと多くのユダヤ人がパウロのところに集まり、彼は朝から晩まで神の国のことを証し、聖書をとおしてキリストを語りました。パウロは軟禁状態のまま2年を過しました。この間に「獄中書簡」と呼ばれる4つの手紙を書き送ったと考えられます(エペソ・ピリピ・コロサイ・ピレモン)。パウロは、たずねて来る人たちをみな迎え、大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えました。

☞子どもたちは、「この後、パウロの裁判はどうなったの?」「パウロは何歳まで生きたの?」などに興味を持って質問するかもしれません。それに答える資料はありません。「使徒の働き」の記された目的は、聖霊の力によって、使徒たちを通して福音が広がっていくようすを伝えること(1:8)であり、パウロの一生を描くことではありません。聖書は、人ではなく、神のなさることに注目すべきことを教えているのです。

暗唱聖句を読み上げます

□結論 パウロは、ローマで宣教する使命をあきらめないでチャレンジしつづけたので、神さまはパウロを守り、それを成し遂げてくださいました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)パウロは最後まであきらめないで福音を伝え続け、神さまは、パウロを守り祝福してくださいました。あなたも、最後まであきらめないで、家族やお友だちが救われるように祈り、愛し、伝道しつづけてみましょう。お友だちを1回だけ教会に誘って断られ、あきらめてしまったということはありませんか?「あの人に伝道しよう」と決心したのに、いつの間にか忘れてしまっているということはありませんか?断られても、あきらめないで、祈ることは続けましょう。パウロは、神さまが必ずローマに行かせてくださると信じ続けました。

例2)あなたは、神さまへの願いごとをあきらめてしまい、祈るのをやめてしまいませんか?神さまが必ずかなえてくださると、信じ続けることができているですか?あきらめないで求め続ければ、神さまは必ず祝福してくださいます。パウロが囚人としてローマに行ったように、自分では思いもよらなかった方法で、あなたの願いをかなえてくださるかもしれません。期待しよう!

例3)あなたも神さまからの使命をいただきましょう!そしてそれを最後までやり通しましょう!神さまはあなたに何をしたいと願っておられるのでしょうか?伝道だけでなく、家のお手伝いや、誰かを助けることかもしれません。学校の勉強かもしれません。使命を知ることがプレッシャーに感じるかもしれませんが、心配することはありません。最後まであなたを守り、祝福し、その使命を達成させてくださるのは、神さまご自身です。